

平成25年5月新発田市教育委員会臨時会会議録

○ 議事日程

平成25年5月28日(火曜日) 午前11時00分 開 会

豊浦庁舎2階 教育委員会会議室

日程第1 会議録署名委員の指名について

日程第2 会期について

日程第3 議 題

議第1号 今後の図書館の在り方について

○ 会議に付した事件

議事日程に同じ

○ 出席委員

関 川 直 委員長

鈴 木 佳 秀 委 員

外 山 陽 子 委 員

籠 島 由美子 委 員

大 山 康 一 委 員

○ 欠席委員

なし

○ 説明のため出席した者

政策調整監 大沼 信勝

教育総務課長 宮崎 光夫

生涯学習課長 船山 隆

図書館長 鈴木 秋彦

書記

教育総務課長補佐 松田 和幸

資料確認

関川委員長

それでは、ただ今から教育委員会平成25年5月臨時会を開会いたします。

関川委員長

日程第1 会議録署名委員の指名についてであります。籠島委員、大山委員を指名いたします。

関川委員長

日程第2 会期についてであります。1日といたします。

関川委員長

日程第3 議題に入ります。

議第1号 今後の図書館の在り方について、を議題といたします。大沼政策調整監より説明をお願いいたします。

大沼政策調整監

車社会の進展、大型店が郊外に出てきている。住民ニーズの多様化、中心市街地が今まで以上に人口が減ってきている。それと少子高齢化、商店街の店舗の減少。それらが顕著になってきている。いわゆる街中の衰退が進行してきている。それではだめなんだということで、なんとか街の顔の賑わいの再生、回復、そのために手を打とうということで、行政もいろいろ進めてきたということでもあります。直近では平成12年3月に、中心市街地活性化基本計画を策定いたしております。そして、このたび平成25年度から平成31年度を計画期間としまして抜本的に見直し改定を行い、新たな計画案が近々示されるということでもあります。6月3日に市議会の本会議がありますが、本会議終了後の全員協議会で説明をするということでもあります。皆様方に本日、案なるものをお示しできませんが、今まで申し上げましたことが今回の議題、「今後の図書館の在り

方について」のいきさつでございます。

そして、中心市街地活性化基本計画について、これから案が示される訳であります。3つのゾーンが示されております。ひとつには駅を中心とした情報発信ゾーン、そして、市役所等の公共サービスゾーン、新たに建替となる市役所の近辺ですが、そして、3つめが城を中心とした歴史文化ゾーンということで、その3つが示されたところであります。そして、駅を中心とした情報発信ゾーン、その核として駅前複合施設整備基本方針案、それも先ほど申し上げました中心市街地活性化基本計画の案とともに示されるということでございます。その核の重要部分になる今回議題にある図書館の分館としての計画、そして教育委員会として大変重要な案件、市立図書館の在り方について、今回、御審議を賜りたいというものでございます。なお、駅前の複合施設整備基本方針でございますが、その中には、図書館の分館、市に関係するものとして、こどもセンター、多目的スペース、キッチンスタジオ、観光案内所、それらが、市に関わりのあるものです。それにプラス、民間の施設ということで計画案が示されるというものであります。本日、位置図を資料として付けていますので、御覧いただきたいと思います。駅前の複合施設につきましては、の駅前遊休地と表示してあります。Aが新発田市の所有地、Bが民有地であります。この地に複合施設を計画していきたいということであります。そのほか、旧生鮮市場、憩いの広場（交番の脇）周辺である市の土地がもう2ヶ所あります。どんな構想なのか建物等のレイアウトもお示しできればよろしいのですが、それについては、もう少し時間が必要ですが、この事業の核となるのが、図書館ということでございます。国のリノベーション事業という有利な補助事業があり、それを利用するには、図書館をなんとしてでも立ち上げていかないと、その事業の採択の要件に合致しなくなるということであります。

それでは、資料の方をご覧ください。1ページでございます。

基本コンセプトは「続400年、そして新たな知的創造と出会いの場」であります。続の意味はいままで続いてきた、そしてこれからも続く、城下町新発田400年の歴史があるということであります。

現在、図書館に溝口藩の資料が残っております。図書館の歴史も400年と合わせて語ってよろしいのかと思います。そして新たな知的創造と出会いの場ということで、これからの知的な創造、人も含めての出会いの場という基本コンセプトで一応考えております。

1の現図書館の現状と課題では、旧藩士家などからの寄贈又は寄託の増加により、収蔵スペースとして建設された「市政・藩政資料室」はすでに飽和状態で、収蔵不可能となっており、また、一般図書、児童図書についても同様、蔵書数の増加に伴い、「開架書棚」及び「閉架書棚」ともに満杯で、一部、通路や車庫

などに収納しており、施設整備の面では、築29年となり、当時は想定できなかったインターネット接続利用、読み聞かせの専用の部屋の確保、学習スペースの拡充など、時代に合わせた積極的な市民サービスへの対応が喫緊の課題となっているということでもあります。

その下の の現状につきましては記載のとおりであります。

2ページの の課題につきましても記載のとおりであります。

3ページの の市民要望につきましても記載のとおりであります。

2のこれからの図書館ですが、今までお話しした課題を解決していかなければなりません、それには、どこか新しい場所に大規模な図書館を建設するのが早いのですが、残念ながら財政的に困難であるということでもあります。また、現在の図書館も全く閉館するには惜しい施設であります。それでどうするか、現図書館を活用しながら、 として学術的な面から、 として一般利用や子どもとの関わりの面から、二分化を図ることが合理的であると考えられるとしております。

具体的には、現在の図書館を仮称ではありますが、「歴史書館」(本館)とし、新発田市の特色である「古文書等」の研究、収蔵及び利用に特化するとし、一方、現在、計画が進められている駅前の複合施設エリアに、交通の要として多くの人々が集えるという利点を活かした、仮称ではありますが、一般書館として、一般図書室、児童図書室及び分館配本室の機能をも移すとともに、インターネット接続利用、読み聞かせの専用の部屋の確保など、時代のニーズにあわせた市民サービスにできるだけ対応するという考えております。

次に3ページの の歴史書館(現図書館・本館)については記載のとおりであります。4ページの 一般書館(駅前)についても記載のとおりであります。こういう姿ということで項目を列挙していますが、今後基本設計の中で詳細について具体化されていくということでもあります。

最後に5ページであります。新しい図書館のイメージ図であります。基本コンセプトを「続400年、そして新たな知的創造と出会いの場」として、太枠で囲んでありますが、新発田市立図書館の姿ということで一番左から歴史書館、一般書館、各分館であります。歴史書館は各団体と連携をとらなければなりません、左は将来という矢印で結んでおりますが、博物館あるいは資料館なのか、これらの施設とタイアップし展示の機能を将来的にはこちらの方に持っていきたいと考えております。現在の図書館にはかなり貴重な資料があります。堀部安兵衛直筆の書とかありますが、そうした貴重なものを(文化・観光)と記載してありますが、これらに資する展示をしていきたいと考えます。

一般書館の方は各団体等、現在も読み聞かせのボランティアさんと連携をとりながら、事業を進めておりますが、これからも各種団体と連携をとるという意味で太い矢印で相互関係で結んでおります。それと将来的に学校図書館への

支援等がここから将来的にできればということでもあります。6月3日にこれらの上位の計画が示されますが、これからの図書館の考え方につきましては、以上、事務局が検討を進めてきた内容であります。御審議いただきますようよろしくお願いいたします。

関川委員長

説明いただきましたが、なにかご質問等ありますか。

籠島委員

全く新しい図書館を建設するのは財政的に困難との説明がありましたが、駅前の市の所有地と民有地に複合施設を建てるという計画の中で、図書館を国のリノベーション事業を活用しながらであれば建てられるという計算なのですか。

大沼政策調整監

レイアウトがないのでわかりにくいですが、複合施設である。補助事業の関係で棟を別にしてつないで相互に利用するのか、全く建物をいっしょにしてひとつの複合施設になるのかははっきり決まっていません。補助事業の正式名は地方都市リノベーション事業交付金といって市が事業主体の場合、交付対象事業費の50%が交付金の対象となる。一般的に図書館をつくる際には、このような有利な制度は一切ない。単独でつくっていくことになります。それで今回この事業が図書館、都市再生ということで、今、図書館を利用した再生事業が盛んになってきましたが、当交付事業の場合も駅前に核としてつくることが採択の条件となります。図書館サイドとしてもこれはチャンスであります。50%ですのでかなり有利である。そこにプラス合併特例債という有利な起債を合わせて活用することになります。

鈴木委員

今の図書館を歴史書館にすることは大変素晴らしいやり方だと思います。

新発田の図書館は極めて有名でありますし、藩校が使っていた古文書類は手つかずの状態であるといえます。特に朱子学をやっている研究者たちからは新発田の図書館はお宝だと聞きます。それをなんとか専門の人を配置して外に向かって開示できるようにしてほしいという要望があります。

極めて貴重で学術的なものであり、道学堂でどういう事業をやってきたかも含めて一貫して残っているのはこの図書館だけらしいです。そのための本館にするのは素晴らしい。ぜひ実現させていただければと思います。

外山委員

図書館が駅前にできることは大変素晴らしいと思います。ただ、夏休みに図書館を利用しようと思って行くと、そこで長時間占用して勉強している子どもたちが多く、たまにしか行かない利用者が行っても机が使えない。机を確保するためには朝早く行かなければならない。特に夏休みとか、時計と競争してかからないと机を利用することができない状況のようです。

駅前ということは大変有利であり、勉強する高校生などは電車時間の待ち合わせに利用する可能性が考えられます。もちろん蔵書を充実させたいということとは大切なことでありますが、電車時間の待ち合わせの利用が予測できますので、そこに学生が集まるといいます。そういうことを予測したスペースがあると図書館が身近なものになり、勉強しながら調べられるスペースを希望したいと思います。

大沼政策調整監

先ほどの説明で付け加えますが、複合施設では市が関与する部分で多目的スペースを計画しています。

学生の学習も含めた場ということも考えております。そうした配慮も考えていかなければならないと思っております。若い人がたくさん集うといことは、当初の目的にかなっていないということでもあります。図書館にも閲覧のスペースを確保します。

鈴木委員

資料中2ページの の課題のケに「大学等との研究機関との連携」と掲げられていますが、敬和学園大学の図書館も満杯で、なんとかしなければいけないと考えております。しかし、教育上の古書はもっと必要なんです。今後、是非新発田市の図書館と協議し、お互いの本をいろんなところにおけるような形をとっていただければ、分野によって、大学にわざわざ来なくても、駅前で見れるとか、歴史書館で見れるとか協力関係ができればと願います。大学と新発田駅間の学バスが走り出しはじめましたので、図書館という観点から見てもお互いに融通をきかせて利用者の便宜を図ることができる気がします。今後相談させていただければありがたいです。

大沼政策調整監

それについては、運用の面も含めて基本構想、基本計画をつくっていく段階で考えていかなければならないと思います。大学等との連携はそうしたことも含めて考えていますが、学術的な価値のある歴史的な資料についての専門家がなかなか確保できない。できるだけ専門な職員は置くにしても、敬和学園大学や県内の大学にオーソリティがいらっしゃれば、その方にもご協力いただきたいな

がら市で所有しているものを世に出していければと思う。研究をしながら表に出していきたいという考え方であります。

外山委員

会議資料中の5ページに将来的には博物館・資料館、展示（文化・観光）という部分について、会津の日新館のように、図書館関係で観光客が行ってみたいと思うような資料は市として持っているのでしょうか。

鈴木図書館長

古文書類は図書館で扱っています。鎧等は生涯学習課で扱っています。藩政資料については県内随一のものがあります。これからいかにどういう切り口で楽しんでもらうかであります。例えば会津であれば日新館、それに劣らないような新発田道学堂の教科書類もあります。今度は展示方法ということになります。

外山委員

日新館は子どもたちを一時的に集めて教えたりすることを行っています。親は子供についていきますので、親も学習できて歴史文化を学べる。それもひとつの方法であります。

新発田は文化財産がたくさんありますし、観光地もあります。観光はつくるように努力しなければならない。図書館がそうなれば（観光客が訪れる図書館）市島酒造まで来ている観光バスが回遊するようになる。ぜひ、工夫して下さるようお願いいたします。

大沼政策調整監

資料中の4ページ 一般書館（駅前）のク、日本語教育の「素読」に対応する、藩校「道学堂」の名称の継承（会議室には床の間のある畳の間も検討する。）とありますが、藩校と同じような形で、正座をして誰かに教えもらう行事の取組も検討していきたいと考えております。

また、観光分野では物産を一同に集めた場所がないので、そういうものとの複合的な施設は考えられます。駅周辺からお城までの流れで、すぐ帰らないように足を止めていただけるといった感じがします。

外山委員

ぜひとも、城の中の一室を道学堂の場として一時的に活用することも良いと思います。なんとか努力していただきたい。

籠島委員

ユニバーサルデザイン化について、参考資料の2ページに点字蔵書数が999と記載されていますが、これが多いのか少ないのかはわかりませんが、また、どのくらいの図書が貸出、閲覧されているのかわかりませんが、せっかく駅前に複合施設として建てられることですし、基本コンセプトが「出会いの場」となっていますので、なかなか外に出られない方々、県立の点字図書館が亀田にあるのですが、私も一度見学したことがあります。わざわざそこまで行かなくても、駅前で自分のほしい点字図書が借りられるという、いろんな方がたくさん集えて、そこで出会いが生まれる。ソフトな面も充実していただきたいと思います。

また、点字図書の蔵書数を増やすことは期待できますでしょうか。

鈴木図書館長

新発田の図書館にない点字図書は県の図書館のものを利用できるよう連携をとっております。いまは、途中で視力が失われ、音声によって学ぶ方も出てきております。新発田の図書館にある点字本は内容が古くなっている恐れもあります。鍼灸（しんきゅう）とかマッサージ関係とか、医療関係の技術書もありまして、内容が古くなっているのではないかと危惧していますが、現状として点字関係の方は市のボランティアセンターが駅前にありますが、こちらでボランティアの方々が活動しております。そちらで点訳をやっていきます。音声も録音して答えることもやっていきます。これまで図書館が担ってきた役割で点字図書は書蔵はしていますが、今後はこちらの方と県の点字図書館との連携の中で役割分担を担っていくことが必要になってくると思います。

大沼政策調整監

4ページの のオの子育て世代をはじめ、利用者（高齢者、障がい者等）にやさしい建物であること（ユニバーサルデザイン）としており、ケのところでは他の部署との連携で（エ）の社会福祉協議会で障がい者の利用に関すること。ボランティア支援等含めて、社会福祉協議会と今後検討していきたいと考えております。とにかく、いろんな方が集えることが大前提になりますのでいろんな方が来れる、また、来たいとなるような図書館にしていくのが最大の目的だと思います。

関川委員長

現実問題として駅前の図書館はどのくらいの面積が必要なのか。こちらが思っているようなことが可能なのでしょうか。

大沼政策調整監

いまのところ、現在の図書館が約2,000㎡あります。民にかかる部分、行政に係る部分で組み合わせをつめております。すべて図書館というわけにはいかないようではありますが、現在のところ3,000㎡を図書館機能として、多目的スペースも図書館専用ではないが、併せて活用ということであれば、いまの図書館の倍の面積を新しい一般書館として活用できるということになります。

関川委員長

一般の人々が利用しやすい実感を持たれることが必要であります。学生は学生で自分たちにとって良い空間、利用のしがいがあるんだという感じが持てると思います。

スペース的には望めそうですが、あとは民間と大学もどのくらい関わるのかわかりませんが、どういう複合施設ができていくのか、棲み分けができてくると思います。

観光については、展示が保障されて結びついていきます。いまは一部細々とやってはいますが。県立病院跡地にできる資料館構想がどんな形になっていくかによって見えてくるかと思います。

外山委員

駅前観光だったら、駅前より城とリンクした観光の方が行きやすいと思います。

大沼政策調整監

駅前には観光案内所は計画されています。インフォメーション機能は駅前にあったとしても、実際にはお城を中心とした歴史文化ゾーンのところ観光も含めて考えるのが一般的であります。図書館のものも展示されることによって、新発田市の図書館の良さも引き出されてくるかと思います。

関川委員長

観光発信が駅前の大事な仕事であります。徐々に観光をより幅広く紹介できるような状況に新発田はなっていくんだという方向性だと思います。新潟日報社のメディアシップを見学してきました。情報を一般市民にどういう形で提供できるかが、ここに居て良かったなとつながるのかなと実感してきました。最近ではコンピュータとか映像とかの情報の提供が多量になってきた。そうしたことに対応できる、情報発信ができる施設ができればいいなと思います。

外山委員

観光と物産と城の周りにみんなそろっていないと観光バスは行きません。あと新発田の歴史を学ぶ場がないと素通りします。

外山委員

堀部安兵衛や大倉喜八郎など新発田の名士を一同に介したところがありますか。

大沼政策調整監

ありません。

外山委員

旧笹神村にはありました。メディアシップにもありました。新潟県の名士を網羅した展示であります。それだけでも見に行きたいと思います。新発田市でもやれば見る価値はあると思います。

鈴木図書館長

生涯学習課で城下町 400 年記念事業で新発田の人物パネル展を行ったことがあります。それらのパネルがまだ残っているので、図書館を寄付をしてくれた坪川瑋平先生を取り巻く新発田の人物の一部を、パネル展で紹介させていただく図書館での展示予定があります。

外山委員

全国に新発田市の名士がたくさんいるのに新発田市の市民は知らない人が多い。是非、すべての人物の展示をお願いしたい。一部じゃ少ない。足を運びません。

関川委員長

資料そのものはすでにあります。それをDVD化し、情報として安易に取り出せるように、市民が触れられるような形を情報発信できるところが、一般書館ができれば、市民はそうした（歴史）人物がいたのかと映像を映しだして見たりする気持ちになると思います。そういうところを刺激していきたい。ちゃんとした資料は歴史書館で本物を見ると。新発田市はまだまだやることはいっぱいあります。

外山委員

財産が眠っています。

関川委員長

ほかに御意見、御質問ありますか。

関川委員長

ほかに御意見御質問がなければ、議第1号 今後の図書館の在り方について、承認してよろしいでしょうか。

関川委員長

異議がないようですので、議第1号 今後の図書館の在り方について、承認することといたします。

関川委員長 以上で平成25年新発田市教育委員会5月臨時会を閉会いたします。

午前11時55分閉会

平成 年 月 日

新発田市教育委員会委員長

委員

委員